参考資料・速報値

２０２５年８月３０日

《チャイルドラインデータ資料》

2025年度・第１四半期

【集計データから、子どもたちの状況を読み解く】

特定非営利活動法人チャイルドライン支援センター

▶ １・今期のテーマ「学校に行きたくない・不登校」◀

▶ ２・ 2025年4月～6月のアクセス内容と分析 ◀

《第１四半期のテーマ「学校に行きたくない・不登校」》

今回は「不登校」について調べました。

チャイルドラインデータベースにおける「不登校」は、具体的には「学校に行きたくない／最近学校に行かなくなり始めた／30日以上休んでいる・休んでいた」などの内容です。そのうち、約半数の内容が「学校に行きたくない／最近学校に行かなくなり始めた」で、残りの約半数が、「１ヶ月以上学校を休んでいる＝不登校」状態の子ども達であると、データ分析から推測されます。

昨年、文部科学省の調査によると、不登校の小・中学校で合わせて約34万6000人と、過去最高となっています。特にこの数年、増加の勢いが増しており、それに伴う社会的な議論も高まっていますので、チャイルドラインのデータから何が見えるのかを探りたいと思います。

ここでのデータは、昨年度にまとめた同じテーマから2024年度分を加え、過去９年間の傾向をみています。

◆「不登校」の年度別件数と割合

2016年度から2024年度までの「主訴・学校」の詳細項目の「不登校」と記録された件数を集計しました。

電話は356～552件でばらつきは少なく、オンラインチャット（以下、チャット）は66件～253件でばらつきがあり、「不登校」は、近年電話が減少傾向、チャットは逆に増加傾向です。

割合は、電話は緩やかに減少傾向、チャットは2018年をピークにコロナ禍を挟み減少し、2022年度からは再び増加するなど変化があります。全体の特徴としては「電話」よりも「チャット」の方が、不登校に関する訴えが多いようです。

年度別「不登校」の着信件数（年度・電話とチャット）

種類	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022	2023	2024	期間合計
電話	466	524	475	552	356	514	500	410	405	4202
チャット	-	-	72	75	66	91	188	227	253	972

※電話は、2023年度から「ネット電話」の件数も含まれる
※チャットは、常設化した2018年度から集計

年度別「不登校」の割合（会話成立分母・電話とチャット）

◆不登校の基本属性など

属性などの基本的な情報について、電話とチャットを比較しました。

・**年齢**　9年間の集計グラフの電話は、中卒～18歳（≒高校年齢）と中学生が高い傾向ですが、チャットでは中学生が半数近くとなっています。2024年度のみの抽出グラフは（右グラフ）、おおむね同じ傾向でした。

・**性別**　9年間の集計グラフの電話は、電話は男子が３割強となっていますが、チャットでは男性は１割強と違いがあります。どちらとも女性からの訴えが多くあるようです。2024年度のみの抽出グラフは、電話は女性が10ポイント減、チャットはほぼ変化なしでした。

・**時間帯**　電話、チャットともに似た割合となりました。電話とチャット共に16時台が割合が高く、電話の方がより高くなっています。2024年度のみの抽出グラフは、電話・チャット共に少しの変化はありますが、特段の違いはありませんでした。

・**平均通話時間**　通話時間は電話は約21分に対し、チャットは約40分と開きがありました。全体的にも電話とチャットは開きがあるので、それと共通しています。とはいえ不登校ではチャットのほうがかなり長い時間のやりとりであることがわかります。また、2024年度の方が電話・チャットともに通話時間が短くなっています。

・月別件数と割合・月別　電話は「件数は多いが割合は少ない」、チャットは「件数は少ないが割合はやや多い」、というのが特徴です。

月別割合（青の折線）では、電話とチャット共に９月が一番多くなっています。チャットは、ついで6月にも多い傾向です。月別件数（黄緑棒）でも、電話・チャット共に９月が多くなっています。また2024年度のみ（右）の割合をみてみると、電話では９・10月・1月にやや多い傾向で、チャットでは、６月・９月・１月がやや多い傾向でした。件数では、電話が９月・10月が多い傾向で、チャットは、６月・９月・１月にやや多く分散しています。

全体的には「９月」に増加の傾向が見られました。一般的に指摘されている２学期開始後の不登校増加時期と重なる傾向が示されました。

◆不登校の365日別割合

「不登校」を1年365日別で集計し、1日ごとの割合を見てみました。

まずグラフの解説です。電話の薄い水色の線は、会話成立を分母とした「日別割合」（条件付き割合）を示しています。割合が一番低い日で「0.1%」（１件）、一番高い日で「2.6%」（35件）でした（ちなみに件数については、37件・2.3%＝8月31日です）。ただ、件数では一桁の日が少なくないため、日や曜日によって変化が大きくばらつきがあります。そこで変動をやや緩やかにして示したのが、濃い色の線で示した「前７日間の移動平均」（集計日から前の7日間の合計を７で割った数字で、1日ずつずらして集計）です。ここでは、集計範囲を広げることでより傾向が見やすくなります。それらを基に、以下に３つの注目点を挙げます（チャットは分母が少ないので省略）。

１つ目に注目なのは「夏休み明け」です。割合（件数も）が高くなっているのは「9月1日前後」で、8月29日に2.0%（27件）、8月31日に2.3%（37件）、9月3日に2.1%（26件）、9月5日に2.3%（32件）、9月7日に2.6%（35件）と、突出していることがわかります。ちなみに過去に「希死念慮の365日別集計」もご紹介していますが、希死念慮に関しては「9月1日前後」にピークがおとずれることに対して、今回の不登校については「9月1日以降の数日間」もややピークが継続している（件数）ので、細かな点ではありますが、付記しておきます。

２つ目の注目は「長期休み明けの反動」です。5月上旬の大型連休、７～８月の夏休み、12月～1月の冬休み期間は割合が低い一方で、休みが明けた頃に休み以前を上回る傾向になっています。特に夏休みは長期間にわたるため、その反動も大きいようにも見えます。また、年度で区切られているためわかりづらいですが、３・４月の春休みと新学期初めにも反動が起こっています。

３つ目に注目したいのが「11月3日前後の小さな反動」です。この背景には、11月3日は文化の日で短い連休があること、この時期に「文化祭」など特別行事が集中していること、１学期から２学期にかけて積み重ねられたいじめや友人関係ストレスによって、２学期に心理負担が増している可能性があるなど、いくつかの仮説が挙げられます。

上記のデータの変化理由として挙げられるのは、「2015年に発表された自殺対策白書」による「過去40年の子どもの自殺の集計で、9月1日前後に突出しているデータとグラフ」が発表されたこと、またそれを受けて毎年メディア報道が加熱したこと、子ども支援に関わる団体などによる呼びかけ等が広がり、それらが情報拡散・啓発された影響が考えられます。特に報道に関しては、2015・16年には「9月1日前後の自殺」が内容の中心でしたが、2017年には「夏休み明け前から相談窓口や対応策の提示・呼びかけ」をする配信記事や動画が増えたのも一因と考えられます。また、上記の分析は、昨年度の公表内容と概ね同じ傾向で継続していると考えられます。

近年、チャイルドラインに入る子どもの声においては「子どもの学校に対するしんどさ」が顕在化しています。

◆ 年齢割合・全体との比較

電話・チャットそれぞれ「会話成立全体」と比較しました。

〈電話〉では、不登校でも会話成立でも中卒～18歳の割合が高い傾向にありますが、不登校の方が中学生の割合が少し高く、違いが見られます。

〈チャット〉では、不登校も会話成立も中学生が高い傾向ですが、こちらも不登校の方が中学生の割合が少し高く、電話とチャットの共通点があるようです。一方で、割合に違いはあるものの、中卒～18歳が電話・チャットで一定割合いることにも注目です。一般的な不登校に関する目線は小学生・中学生に向きがちだと思いますが、高校生の不登校に関する議論もさらに必要とされているかもしれません。

◆ 性別割合・全体との比較

性別割合を比較しました。

〈チャット〉は、ほぼ割合の違いはなかったものの〈電話〉は不登校で女子の割合が高いことがわかります。学校に行きたくない、といったことを女子の方が打ち明けやすいことが理由の一つに挙げられますが、それ以外の理由に何があるのかについても議論の余地があるでしょう。

◆ 時間帯割合・全体との比較

アクセス時間の割合を比較しました。「電話・不登校の16時台」の割合がやや高く、他も多少の変化がありますが、全体的には概ね似たような割合となっています。少し違いがある理由については、仮説や予測できる材料はあるものの明確ではないので、今後深掘りが必要です。

※16時台～21時台以外の時間帯もキャンペーン等で実施していますが、ここでは基本的な開設時間のみで集計しています。

◆ 通話時間・全体との比較

平均の通話時間の比較です。どちらも「不登校」の方が通話時間が3分半程度長い傾向にありました。この通話時間が長くなるのは、虐待や希死念慮など、他の深刻な悩みに関する通話時間と似た傾向です。深刻な悩みだけに、時間をかける意図と時間がかかった結果の両面があるといえます。

◆ 不登校の性別×年齢

性別と年齢の関係を見てみます。

まずは〈電話〉から。小学校・中学校は女子が多くを占めていますが、中卒～18歳になると男子の割合がやや増加しています。〈チャット〉は、全年齢共通で８割強が女子でした。チャットは全体傾向もほぼ同じです。

電話・チャット共通して女子からの相談の割合が高いことがわかりました。この背景としては、男子は幼少期から「男らしさ」（強さ・弱さを見せてはだめ・自立性など）が期待される「社会化」（社会や集団の一員となるために必要な知識や価値観などを習得し、社会に適応する過程）の影響を受けており、結果として相談や援助要請への心理的ハードルが高くなることが指摘されています。特に、親や友人など身近な人への相談は、小学生までは男女差はなく、中学生から差が出始める傾向にありますが、「第三者への相談」となると、小学生のうちから男女差が出るようです。またその傾向は今回、窓口ツールが電話よりもチャットにより強く出でています。

※参考：北村瑞穂「子どもの感情発達の支援：ジェンダーの影響を考える」大阪樟蔭女子大学研究紀要, 2023年 https://osaka-shoin.repo.nii.ac.jp/records/4887／　下開千春「子どもの悩みや不満と相談相手」第一生命経済研究所, 2008年 https://www.dlri.co.jp/report/ld/01-14/notes0807b.html／　染矢明日香氏解説「【男の子と性の会話はハードルが高い？】専門家が解説！思春期男子の「性教育」で気を付けるべきこと」ヨガジャーナル日本版, 2022年 https://yogajournal.jp/13630 など

◆関係性・全体との比較

「関係性」項目を集計しました。

〈電話〉は、「自分自身のこと」が多くを占めています。続いて「友人・知人」「先生」や「実母」の関係と続きます。

会話成立との比較では「自分自身のこと」が「不登校」に多く、会話成立の割合と開きがありますが、逆に「友人・知人」が低くなっています。

〈チャット〉についても電話とほぼ同様の傾向にありました。会話成立との比較とも、電話とほぼ同様で「自分自身のこと」が「不登校」に多く、開きがあり、逆に「友人・知人」が少なくなっています。

※項目の順番は、電話グラフと同じ順番としています。

電話・チャットともに「自分自身のこと」が多い背景には、いじめや学校や家庭の人間関係などの「対象のある悩み」を通り越して「行けなくなった自分への葛藤」があるから、とも読み解けます。「学校に行きたい（行かなきゃいけない）、でも行けない（行きたくない）」という矛盾した感情が両立しせめぎ合っている場合が多く、複雑な悩みを抱えていることへの配慮が必要と考えられます。

◆気持ち・全体との比較

「気持ち」項目を集計しました。

まずは〈電話〉です。それぞれの項目が分散していますが、不登校は「不安」が一番多く、次いで「つらい・苦しい」と続いており、概ね2023年度までの集計と同じ傾向です。会話成立全体と比較しても「不安」「つらい・苦しい」の割合が高くなっていることがわかります。

つぎに〈チャット〉です。

こちらも項目が分散していますが、一番多かったのが「つらい・くるしい」で、「不安」「イヤだ」が続いています。会話成立比較しても、「つらい・苦しい」「不安」ともに不登校の方が割合が上回っていることがわかります。

※項目の順番は、電話グラフと同じ順番としています。

次に、集計の仕方を少し変えて、「会話成立の『気持ち』の各項目の数を分母とした不登校割合」を、気持ち項目における比較グラフとして出しました。

まずは〈電話〉です。会話成立全体からみた「不登校」の割合は「1.0%」（グラフ項目では、最後の行に「合計」と表記）となっていますので、これを基準として「気持ち」の各項目を比較すると、「つらい・苦しい」2.1%、「疲れ」1.9%、「憂鬱」1.7%、「不安」1.5%などが全体より上回っています。

上記横棒グラフの割合とは違って、２番目３番目に「疲れ」「憂鬱」が現れてきていることに注目したいと思います。不安やつらさなどの感情面に加え、身体的疲労や心理的疲労など身体にダメージがのしかかっている側面も見えてきます。

〈チャット〉は今回、初めて集計を行いました。全体の不登校の割合は「2.2%」で、これを基準として比較すると、「疲れ」4.0%、「人目が気になる」3.3%、「憂鬱」3.3%、「不安」3.1%、つらい・苦しい」2.9%などが基準よりも上回っていました。横棒グラフの割合と違いが出ていて、不安やつらい・苦しいといった「思い・痛み」よりも、疲労や精神的負荷がより目立ちます。背景にある状態について、こちらのグラフにより現れている可能性があるでしょう。

この会話成立を分母とした不登校割合を〈電話〉と〈チャット〉で見比べても、違った傾向です。電話では「つらい・苦しい」がトップですが、チャットは上位４項目が電話の「つらい・苦しい」よりも上回っています。この違いの理由は複雑だと推測されますが、音声と文字というコミュニケーション上の情報の違いや、電話とチャットの形式・ツールの違いで感情の揺れをダイレクトに表現しやすい、あるいは言葉にして表現できる子が書き込んでいる割合が高い可能性、チャットの文字表現の方が深い悩み・重大な悩みを書き込みやすいなどの仮説が考えられるので、今後のさらなる詳細分析が必要です。

◆つながった動機

９年間の集計グラフも2024年度のみの集計グラフも「話を聴いてほしい」が多くを占めています。割合の違いは、電話／チャットでも、期間で見ても似た割合となりました。強いて言えば、電話の方が誰かとつながっていたいが若干多い傾向です。

会話成立全体との比較を見ます。

不登校の方が、電話・チャット共に「話を聴いてほしい」割合がやや多い傾向にあります。それ以外はおおむね似た傾向です。

◆まとめ

✓ **年度の件数と割合**：電話は1.0%前後で推移。一番高いのは2021年度の1.2%。2024年度は1.0%だった。チャットは2.2%前後で推移。一番多いのは2018年度だが件数が少ないので参考。ここ3年では2022年度が2.4%となっている。

✓ **年齢**：電話は中卒～18歳が最多。チャットは中学生が最多。2024年度は、電話のみ中学生と中卒～18歳までがほぼ同じ割合に。

✓ **性別**：電話は女子が65%、チャットも女子が84%と多い。2024年度は、電話が女子が10ポイント減少して男子が多い。チャットは変化なかった。

✓ **時間帯**：電話・チャットともに似た割合。2024年度も少し変化はあるものの同様。

✓ **平均通話時間**：電話とチャットではチャットが倍の時間長い（電話21分：チャット40分）。2024年は電話・チャットも３分程度短くなっている。

✓ **月別の件数と割合・月別**：電話は「件数は多いが割合は少ない」、チャットは「件数は少ないが割合はやや多い」。2024年度は、少し違いは見られるが、大きくはない。全体的に「９月」が増加の傾向。不登校増加時期と重なる。

✓ **365日別**：「前７日間の移動平均」では、
①「夏休み明け」が増加、9月1日の夏休み明けが一年で一番突出
②「長期休み明けの反動」で、5月の大型連休、７・８月の夏休み、12月・1月の冬休みに低くなる一方で、休みが明けると反動。
③「11月3日前後の小さな反動」。文化の日連休に文化祭などの行事にともなったストレスや、いじめや教室空間の居心地の悪さが増す可能性。

✓ **年齢の全体比較**：全体（会話成立全体）との比較をみると、電話・チャット共に「中学生」が増える傾向。ただし、中卒～18歳も電話で46%、チャットで23%いる。

✓ **性別の全体比較**：全体との比較では、電話の不登校が女子が21ポイント増加。チャットは違いはなかった。

✓ **時間帯の全体比較**：全体との比較では、電話・チャット共に似た傾向。細かくみると、電話は不登校の「16時台」が５ポイント高い。チャットは不登校の「19時台」が６ポイント低かった。

✓ **通話時間の全体比較**：全体との比較では、電話の不登校が３分半ほど長くなっており、チャットの不登校も４分近く長くなっている。

✓ **性別×年齢**：全体的に女子が多い。やや男子が多いのは電話の中卒～18歳で男子が41%だった。それ以外はおおむね似た割合。

✓ **関係性の全体比較**：全体との比較では、違いがみられた。電話の不登校は違いがあり「自分自身のこと」が22ポイント程度多く、チャットは27ポイント近く多い。

✓ **気持ちの全体比較**：全体との比較では、違いが見られた。電話の不登校は「つらい・苦しい」が10ポイント、「不安」７ポイント多かった。チャットの不登校は「つらい・苦しい」が７ポイント、「不安」が６ポイント多かった。
また、条件付き割合においては、電話の項目で割合が一番高いのが「つらい・苦しい」に対し、チャットでは「疲れ」となっており違いがみられた。チャットの方が、疲れ以外に「人目

が気になる」「憂鬱」「不安」の４項目が「つらい・苦しい」を上回っている。この違いについてはさらなる分析が必要。

✓ **つながった動機の全体比較**：全体との比較は、電話・チャット共に「話を聴いてほしい」が８割超で一番多かった。2024年度も大きな変化はなかった。全体との比較では、電話チャット共に不登校のほうが「話を聴いてほしい」が増加していた。

今回のテーマの「不登校」は昨年度も同様の集計をおこなっています。今回はより細かくチャットの集計も行ったほか、2024年度単体のデータなども抽出し、比較検討をおこないました。

そもそも、年齢、性別、通話時間など、全体的に電話とチャットの傾向の違いがありますが、「不登校」に関しても共通した傾向が見られました。一方「全体（会話成立全体）」と「不登校」を比較してみると、電話もチャットもそれぞれ違いや特徴が見られ、特に電話に関しては年齢や性別、通話時間、関係性などで違いが際立っています。これらの違いは、そもそもの音声のやりとりと文字のやりとりといった特性に関係する部分が大きいことは、他の相談窓口に関する研究でも指摘されていますが、この違い自体にも子どもたちのこころの変化が読み解ける大事な差異とも考えられますので、今後の課題としたいところです。

加えて「気持ち」におけるチャットの割合では、全体と比較しても「つらい・苦しい」「不安」項目だけでなく「疲れ」「人目が気になる」「憂鬱」といったキーワードが浮かび上がってきているのも興味深いところです。

不登校数は文部科学省の最新発表でもさらに増加しました。小中学校で３４万６０００人を超えています。また前回も触れましたが、不登校に至らない子ども＝「隠れ不登校」や「仮面登校」の子ども達もかなりの数いることが推計調査でも話題となっています。

今回のチャイルドラインデータは、不登校数といった社会データだけでなく、子ども自らの声としても訴えがあるという意味で、実態をより浮かび上がらせているデータとなっているかと思います。「学校にいくのがしんどい・つらい」という子どもたちの声を、さまざまな角度で検証する必要があると思いますので、このデータ等が一つの基礎的情報となることを期待したいところです。

今後も変化する可能性がありますので、継続的な深掘りや分析を検討していきます。

◆不登校を中心とした子どもたちの声　※個人が特定されないようプライバシーに配慮して再構成しています。

- 引きこもりで通信制高校に通っています。ADS/統合失調症の診断を受けているけど、医者に行けていない。誰かに話を聞いて欲しい。
- 恵まれている環境なのに学校に行けていない自分が嫌だ。苦しくて辛くなってしまうのも嫌だ。自分で自分を否定してしまうのも嫌だ。ストレスがたくさんでもう抱えれない。どうにもならなくて辛くて消えたくなってしまう。
- 私のことわかったつもりでいるのやめてもらいたい。悩みを言っても何にもわかってくれないし、わかろうともしてくれない。無理して悩みのないふりをしているけどもう限界に近いと思う。あと学校とかで「悩みがあったら友達や先生、お家の人に相談しましょう」とかいってるけど全然相談しやすい感じはないから相談できない
- やっと中学校に入学したのに早速行きたくなくなっちゃったーー中学受験して頑張って入ったのにー、私って親不孝だね

《データ資料概要と注意点》

2025年４月～2025年６月のアクセス内容、データベースを集計し分析

チャイルドラインに寄せられた子どもたちの声にどのような傾向があるのか。チャイルドラインにおける”データベース”等を基に、集計しまとめました。

・期間：《2025年度・第１四半期》2025年４月～2025年６月（速報値）
・データ集計日：2025年8月29日

・集計数（分母）：

【トラヒックデータ】（発信件数・今回使用したデータのみ掲載）

	24年７月	８月	９月	10月	11月	12月	25年1月	2月	3月	4月	5月	6月	合計
発信件数	34,064	32,553	37,219	32,136	31,424	25,368	27,361	24,379	28,160	31,207	34,788	32,814	371,473

【データベース】（件数・今回使用したデータのみ掲載）

	23年７月	８月	９月	10月	11月	12月	24年1月	2月	3月	4月	5月	6月	合計
DB全体	15,031	14,881	16,910	16,764	16,567	13,683	13,360	12,953	14,244	15,334	15,637	14,737	180,101
会話成立	4,450	4,255	4,450	4,602	4,833	3,893	3,898	3,823	4,125	4,263	4,247	4,179	51,018

※（全体）は会話成立、会話不成立、無言等を含んだ全体集計数　※他資料とはデータが異なる場合がある。

・表記の定義：　「%」＝上記項目の分母（集計した数）の割合
「件」＝データベースに入力されたアクセス・会話件数
「ポイント」＝パーセントポイント（他の%をポイントとして比較）

・データの種類：【トラヒックデータ】電話＝NTTコミュニケーションズ、
ネットでんわ＝独自開発プログラム、チャット＝AI.BiSから取得
【データベース】「受け手」が感じた内容を子どもが特定できないようプライバシーに配慮し、データベースとして集積

・データの性質：「速報値」である。そのためデータの誤入力や重複、未入力データがある等、今後、修正が生じる可能性がある

・データの注意点：各データの小数点をまとめる際に集計上の誤差が生じるため、グラフのデータと他のグラフデータに数字の違いが生じる場合がある

・<u>報道関係の皆様へ</u>：この資料でのデータは速報値で、今後、集計結果が変わる可能性があります。データ・資料について取材、引用の際は、チャイルドライン支援センター（連絡先最終ページ）までご一報ください。

《トラヒックデータ／発信数・着信数》

トラヒックデータの発信数・着信数（電話とチャット）の最近の３ヶ月は、発信数が5月がやや多かった。1年間の推移を見てみると、着信率は落ち着いている。

《データベース・年齢（会話成立）》

ここからはデータベースの「会話成立」（電話とチャット・以降のデータも同様）に絞ったデータを紹介する。まず「年齢」別の集計から。

１年間の月別推移は、この３ヶ月も中卒～18歳が高かった（約5割）。

《データベース・性別（会話成立）》

データベースの「会話成立」の中の「性別」を1年間の月別推移で集計した。男女ともに割合に大きな変化はなかった。

《データベース・主訴［大項目］（会話成立）》

データベースの「会話成立」の中の「主訴［大項目］」を1年間の月別推移で集計した。この３ヶ月は、１～３月との比較では変化はあったが、4～6月のみでは大きな変化はなかった。

《データベース・動機（会話成立）》

データベースの「会話成立」の中の「動機」を1年間の月別推移で集計した。全体として「話を聴いてほしい」が大きな割合を占めている。

《データベース・気持ち（会話成立）》

データベースの「会話成立」の中の「気持ち」を1年間の月別推移で集計した。最近の３ヶ月は大きな変化はなかった。

《データベース・関係性（会話成立）》

データベースの「会話成立」の中の「関係性」を1年間の月別推移で集計した。全体として「自分自身のこと」の割合が多い。

《データベース・「希死念慮」（会話成立）》

データベースの「会話成立」のうち、「主訴・希死念慮」と「背景・希死念慮」の件数をそれぞれ1年間の月別推移で集計した。集計数が少ないので参考値ではあるが、主訴・希死念慮は1年間の推移では件数が減少している。一方、背景・希死念慮はここ４ヶ月増加傾向にあった。

＜希死念慮などに関する事例＞

- しにたい　つらい　よくないことしてるってわかってる　でもつらい　もう無理だ　しにたい　もう居場所ない
- 死にたいんじゃない。消えたいんだよ。
- 死にたい。毎日学校に行くのが辛い。みんな頑張ってるって言われるけどそんなん、自分が一番わかってる。でもどうしても身体が重たい。立ってるだけで疲れる。寝ても寝ても疲れが取れない。テスト勉強しないとって思うと思うほどどんどんしんどくなる。辛い。学校行きたくない。ずっと部屋にいたい。何も考えたくない。でも、それができたら苦労しないよな。ほんまに死にたい。
- 僕が生きてる理由がわからない親に色々言われるし学校には行けないし時間も守れないこんなカスみたいな人間が生きてる必要ないと思うだけど死にたくても死ねない推しのライブ配信ゲーム好きなことができなくなるでも死にたい存在が無かったことになってほしい存在をこの世から消したい

《「つぶやく」に寄せられた声の傾向》

こちらは、ウェブページ上の「つぶやく」に寄せられた声を集計した（属性などは自己申告・記入）。
件数は、4月～6月にかけて書き込みが再び増加傾向。つぶやいた内容のジャンルは、順に「学校のこと」「自分のこと」「家族のこと」「友だちのこと」となっている。

【つぶやく】書き込み件数・年月推移
（2024年7月から2025年6月）

【つぶやく】テーマ別・複数選択　件数
（2025年4月から6月合計）

＜つぶやかれた内容＞（投稿者が「公開してもよい」を選択したもの。個人がわからない形で一部編集の上掲載）

- 僕、起立性調節障害かもしれなくて、親にも言っているけど、理解してもらえなくて、「寝るのが遅いからでしょ、自業自得」と言われる。本当は、日によって性別が違うんだけど、それは親に言えていない。
- 僕は、今は男です。午前中は女でした。僕は、LGBTQのQジェンダーフルイドです。(わかってくれる人がいたらいいな)ここは田舎だけど、もう少しLGBTQの人が集まれるところが欲しいです！学生だけでもOK！まじで作って……　学校内でもいいよ……　もっと話をしてみたい……　親にも話したことない……
- 性犯罪の被害者になった女の子は一生悩みながら生きていかないといけないの？
警察は捜査してくれてるけど、事情聴取のあった日はいつにも増して死んでしまいたくなる。何が「味方だよ」だ。犯罪に巻き込まれただけでも辛いし苦しいのに、話をするのにどんな気持ちだったか知らないくせに。
- 僕はADHDの聴覚過敏という障害です。僕は学校では教室が苦手なのでいつも校長室登校をしています。教室だとみんながわちゃわちゃざわざわしてるのが苦手だからです。
苦手な音は椅子がきしむ音とか黒板にチョークで文字を書くコンコンコンって音、椅子のキュルキュルって音、キーボードのカチャカチャって音、急に聞こえる音とか・・・車が通る音も、食器のカチャカチャも苦手です。
同じ音とかが続いたりするとイライラして、とっても辛いです
- ママが統合失調症で、理解しがたいことを数年言ってきます。そのせいでパパとは別居しています。私も妹も不登校になったりストレスがたくさんあって大変です。今後どうにかなることを祈ります。
- なんかもう疲れました。 妹のお世話をどれだけしても認めてもらえない最近学校でも間違えたり、ボーっとしてしまいます。助けて

【この資料に関する問い合わせ】

制作・著作：特定非営利活動法人チャイルドライン支援センター

〒162－0808 東京都新宿区天神町14 神楽坂藤井ビル５F

メール：info@childline.or.jp　電話：03-5946-8500
ウェブサイト：https://childline.or.jp/